

みずほマーケット・トピック(2021年10月1日)

内容 1. 為替相場の動向

2. 来週の注目材料

※「3. 本日のトピック」はお休みさせていただきます。本日発行の『中期為替相場見通し』をご参照下さい。

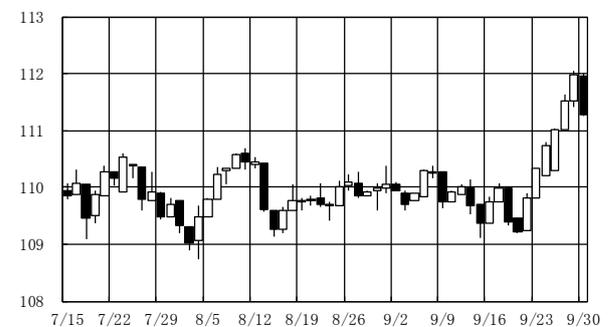
1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- 今週のドル/円相場は年初来高値を更新した。週初 27 日、110.77 円でオープンしたドル/円は米長期金利が低下する中、週安値の 110.53 円まで下落するも、その後は中国不動産大手企業を巡るデフォルト懸念が一旦和らぎ、ドル買い地合いが継続。米長期金利上昇を好感じり高の展開で 111 円台前半まで上昇した。28 日、ドル/円はじり高に推移し 111 円台前半まで上昇したが、その後発表の米 9 月消費者信頼感指数の低下やポジション調整の動きからドル売りが加速し 111 円台前半まで反落。一巡後は米長期金利の上昇に再び 111 円台前半まで値を戻した。29 日、ドル/円は米金利の低下を横目に 111 円台前半まで下落する場面もあったが、実需のドル買いを受け 112 円を突破しその後も高値圏を維持した。30 日、ドル/円は前日からのドル買いの流れは途切れず年初来高値を更新、約 1 年7か月ぶりの水準の 112.08 円まで上昇するも、その後は株価の下落やポジション調整の動きが散見され、111 円台前半まで反落した。本日のドル/円は、111 円台前半での取引となっている。
- 今週のユーロ/ドル相場は年初来安値を更新した。週初 27 日、1.1720 付近でオープンしたユーロ/ドルは週高値の 1.1730 を付けた後、米金利上昇を受けたドル買いが強まったことから 1.16 台後半まで下落。その後は小幅に反発するも戻りは鈍く、1.17 付近で上値重く推移した。28 日、1.16 台後半で上値重く推移していたユーロ/ドルは米金利低下によるドル売りから 1.17 台を回復したが、ドル売り一巡後は 1.16 台前半まで値を下げ、方向感のない値動きとなった。29 日、1.16 台前半付近で小動きだったユーロ/ドルは、前日同様ドル買い地合いの流れは止まらず 1.15 台後半まで続落し、その後も安値圏での軟調推移となった。30 日、株安を受けたユーロ/円の売りに連れ安となり、1.1563 まで下落し年初来安値を更新した。本日のユーロ/ドルも年初来安値付近での取引が継続している。

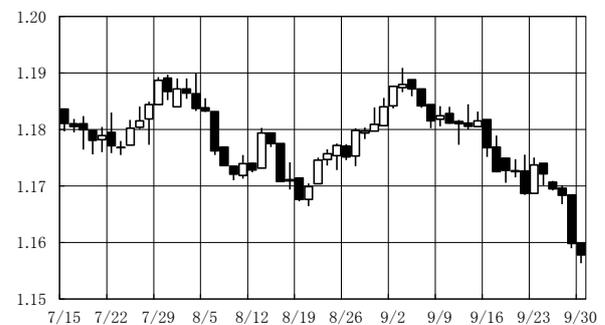
今週のおもな金融市場動向(出所:ブルームバーグ、みずほ銀行)

		前週末	今 週			
		9/24(Fri)	9/27(Mon)	9/28(Tue)	9/29(Wed)	9/30(Thu)
ドル/円	東京9:00	110.33	110.77	110.96	111.52	111.93
	High	110.79	111.07	111.64	112.05	112.08
	Low	110.20	110.53	110.94	111.21	111.24
	NY 17:00	110.74	111.01	111.52	111.98	111.28
ユーロ/ドル	東京9:00	1.1741	1.1722	1.1696	1.1687	1.1601
	High	1.1747	1.1730	1.1703	1.1689	1.1609
	Low	1.1701	1.1685	1.1668	1.1590	1.1563
	NY 17:00	1.1722	1.1695	1.1684	1.1598	1.1578
ユーロ/円	東京9:00	129.55	129.86	129.80	130.32	129.85
	High	129.83	129.92	130.37	130.46	129.94
	Low	129.40	129.49	129.70	129.68	128.82
	NY 17:00	129.83	129.88	130.25	129.87	128.84
日経平均株価	30,248.81	30,240.06	30,183.96	29,544.29	29,452.66	
TOPIX	2,090.75	2,087.74	2,081.77	2,038.29	2,030.16	
NYダウ工業株30種平均	34,798.00	34,869.37	34,299.99	34,390.72	33,843.92	
NASDAQ	15,047.70	14,969.97	14,546.68	14,512.44	14,448.58	
日本10年債	0.05%	0.05%	0.07%	0.06%	0.07%	
米国10年債	1.45%	1.49%	1.55%	1.52%	1.49%	
原油価格(WTI)	73.98	75.45	75.29	74.83	75.03	
金(NY)	1,751.70	1,752.00	1,737.50	1,722.90	1,757.00	

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- 米国では、8日(金)に9月雇用統計が発表される。前回8月の非農業部門雇用者数は+23.5万人(前月比、以下同様)と市場予想(+73.3万人)を大幅に下回る結果となった。民間部門雇用者数は+24.3万人、政府部門雇用者数は▲0.8万人の結果となった。民間部門雇用者数に関する内訳は、民間サービス部門が+20.3万人と8月の+73.4万人から大きく伸び悩んだ。娯楽・宿泊業が8月は+41.5万人であったものの、横ばいの推移にとどまったことが大きく影響した。その他、医療・社会扶助サービス業がマイナスに転じ、小売業の雇用減も要因となった。財部門は+4.0万人とやや上昇幅を減らした。政府部門については7月の+25.5万人から大きく悪化。地方政府の雇用がマイナス転じたことが主な要因となった。一方、失業率は5.2%と0.2%ポイントの改善。労働参加率(労働力人口÷生産年齢人口)は、61.7%と前月から横ばいの推移となった。また、長期失業者数(27週以上の失業者人数)は前月から▲24.6万人となり、各州での失業給付の終了を受けて、徐々に労働市場に復帰していることを示唆する内容となった。ブルームバーグの事前予想では、9月の結果に関して、非農業部門雇用者増加数を+45.0万人の増加を見込んでいる。失業率については、5.1%の予想となっている。
- 本邦では、7日(木)に地域経済報告(さくらリポート)が発表される。7月報告分では、景気の総括判断は多くの地域では「基調としては持ち直している」または「持ち直しつつある」とされた。生産活動においては3四半期連続で全地域にて景気判断が引き上げられたが、消費活動に関しては、デルタ株の拡大懸念が高まってサービス業の回復が停滞したことが報告され、景気判断が引き下げた地域も見られた。その他、雇用・所得の動向は全地域とも弱い動きとなったが、半導体製造やテクノロジー部門など一部業種では人手が不足していることが確認された。今回報告に関しては、緊急事態宣言が延長された下での調査結果となることから、対面サービス業を中心に軟調な結果となることが想定される。9月の日銀金融政策決定会合では、黒田日銀総裁は景気について引き続き厳しい状態にあるものの、基調としては持ち直しているとの判断を維持したが、今後ワクチン普及の効果が段階的に示現することも想定される。

	本 邦	海 外
10月1日(金)	<ul style="list-style-type: none"> 日銀短観(9月調査) 8月失業率/有効求人倍率 	<ul style="list-style-type: none"> 米9月ミシガン大学消費者マインド(確報) 米9月ISM製造業景気指数 ユーロ圏9月消費者物価指数(速報)
4日(月)	<ul style="list-style-type: none"> 9月マネタリーベース 臨時国会開催(首相指名選挙) 	<ul style="list-style-type: none"> ユーロ圏10月センチックス投資家信頼感指数 米8月製造業受注/耐久財受注(確報)
5日(火)	<ul style="list-style-type: none"> 9月非製造業PMI(確報) 	<ul style="list-style-type: none"> ユーロ圏9月非製造業PMI(確報) 米8月貿易収支 米9月ISM非製造業景気指数
6日(水)	—————	<ul style="list-style-type: none"> 米9月ADP雇用統計
7日(木)	<ul style="list-style-type: none"> 日銀地域経済報告(さくらリポート) 8月景気動向指数(速報) 	<ul style="list-style-type: none"> 米8月消費者信用残高
8日(金)	<ul style="list-style-type: none"> 8月経常収支 	<ul style="list-style-type: none"> 米9月雇用統計

【当面の主要行事日程(2021年10月～)】

日銀金融政策決定会合(10月27～28日、12月16～17日、1月17～18日)
 ECB政策理事会(10月28日、12月16日、1月20日)
 FOMC(11月2～3日、12月14～15日、1月25～26日)

市場営業部・金融市場部
 チーフマーケット・エコノミスト
 唐鎌大輔(TEL:03-3242-7065)
daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です

<http://www.mizuuhobank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) http://www.mizuuhobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2021年9月30日	ドル/円の年初来高値更新と岸田新政権への期待
2021年9月28日	次期ドイツ政権が直面する課題②～域内再分配～
2021年9月27日	次期ドイツ政権が直面する課題①～対中関係～
2021年9月24日	週末版(FOMCを終えて～既定路線と化した「22～23年の利上げ」～)
2021年9月22日	恒大問題の現状整理～2つのポイントで理解する今後～
2021年9月21日	ドイツ総選挙直前プレビュー～政治空白は必至か～
2021年9月17日	週末版(実質実効為替相場(REER)の国際比較～過去1年で割安感が加速したのは円くらい～)
2021年9月16日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2021年8月分) 日本株上昇をどう解釈すべきか～2つの理由の妥当性～
2021年9月14日	70年代前半まで落ち込む円の価値、その意味
2021年9月13日	接種率の米国超えも、漂流する「戦略なき経済」
2021年9月10日	週末版(ECB政策理事会を終えて～12月がPEPP終了判断の分かれ目に～)
2021年9月8日	米消費者心理と米国の所得・消費環境について
2021年9月7日	世界経済は「踊り場」も円相場シナリオは揺るがず
2021年9月6日	米8月雇用統計を受けて～当面の3つのシナリオ～
2021年9月3日	週末版(ユーロ圏の物価情勢と孤立する日本～日米欧の物価情勢格差も鮮明に～)
2021年9月1日	ECB政策理事会プレビュー～にわかに出口モード～
2021年8月30日	ジャクソンホール経済シンポジウム～市場は安堵の様相～
2021年8月27日	週末版(ECB議事要旨を受けて～新ガイダンスを巡って議論紛糾～)
2021年8月26日	混沌極めるドイツ総選挙～真実味帯びる「CDU/CSU」下野～
2021年8月24日	銅金レシオ急落はリスクオフ開始の合図か？
2021年8月23日	ECB政策理事会プレビュー～「静観が吉」しかない情勢～
2021年8月20日	週末版(FOMC議事要旨を受けて～正常化プロセスは視界良好～)
2021年8月19日	迫るメルケル退場～欧州の未来を問う選挙～
2021年8月17日	本邦4～6月期GDPを受けて～完全復元は23年以降に～
2021年8月16日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2021年7月分) メインシナリオの障害～米消費者マインドの動揺～
2021年8月13日	週末版(「異形の経済」が修正されるドイツ～アフター・メルケル時代へ)
2021年8月11日	世界に範を示す英国の金融政策運営
2021年8月10日	米7月雇用統計～実現に近づくウォー想定～
2021年8月6日	週末版
2021年8月3日	「雇用の最大化」に近づく米国経済
2021年8月2日	アフターコロナを捉えた米欧の4～6月期GDP
2021年7月30日	週末版
2021年7月29日	FOMCを終えて～「著しい進展」が視野に～
2021年7月28日	「人負け」が鮮明となっている日本の経済・金融情勢
2021年7月27日	「米国買い」をテーマとする金融市場の現状
2021年7月26日	ECB政策理事会を終えて～歴史的な修正～
2021年7月21日	週末版
2021年7月20日	変化の兆候を感じる円相場～需給・物価要因に変調～
2021年7月19日	気候変動オペを受けて～バランスに配慮した素案～
2021年7月16日	週末版(「ドル安見直し」の内情を探る～「需給」でドル安の真実味～)
2021年7月15日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2021年6月分)
2021年7月14日	米インフレ率の騰勢とノイズ化するドットチャート
2021年7月13日	気候変動対策に動き出したECB～戦略修正を受けて～
2021年7月12日	猜疑心強まる民間部門～緊急事態宣言と貯蓄～
2021年7月9日	週末版(ECB、18年ぶりの戦略修正の中身～ハト派修正であることは確か～)
2021年7月8日	米金利低下でも買われない円。理由はどこに
2021年7月6日	想定される3つのシナリオ～BIS年次報告②～
2021年7月5日	Pandexitと格差拡大～BIS年次報告～
2021年7月2日	週末版(2021年上半期の為替相場レビュー～下半期はワクチンから金融政策へ～)
2021年7月1日	世界の外貨準備動向～21年3月末時点～
2021年6月28日	22年Q1に完全回復を見込むECB。「次の一手」は？
2021年6月25日	週末版(ワクチン相場の賞味期限とリスク～「ワクチン接種先進国のつまずき」に怯える局面～)
2021年6月23日	やはり無理が出始めた北アイルランド国境管理
2021年6月22日	遂に日銀も踏み出した中銀のグリーン化～その②～
2021年6月21日	遂に日銀も踏み出した中銀のグリーン化～その①～
2021年6月18日	週末版
2021年6月17日	FOMCを終えて～前倒しで進む正常化シナリオ～
2021年6月16日	新たな安全資産の誕生～ハミルトン・モーメントか否か～
2021年6月15日	イングランド行動制限延長も構図は変わらず 本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2021年5月分)
2021年6月14日	ビットコイン法定通貨化に関する考察
2021年6月11日	週末版(ECB政策理事会を終えて～PEPPのその先を考える～)
2021年6月9日	ワクチン追い風に盛り返すドイツ与党～最後の前哨戦～
2021年6月8日	試され始めた「双循環」～元高容認に変調～
2021年6月4日	週末版(米5月雇用統計を前に～どうあれドル/円相場の行く先は変わらず～)
2021年6月3日	「蚊帳の外」感の強まる円相場～細る取引高～
2021年6月2日	着実に進むユーロ圏の日本化とユーロの堅調
2021年6月1日	米インフレ基調の現状と正常化プロセスへの考察
2021年5月28日	週末版(BOE早期利上げ観測の傍らで浮上する英国リスク～試されるワクチンの力～)
2021年5月26日	30年連続「世界最大の対外純資産国」の背後にドイツあり
2021年5月25日	「量」を意に介さないユーロ相場の騰勢
2021年5月24日	「コロナの終わり」で再認識する暗号資産の虚実
2021年5月21日	週末版
2021年5月20日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2021年4月分) FOMC議事要旨～テーパリングが必要なのは財政政策？～
2021年5月19日	ECBのテーパリングはあるのか？
2021年5月18日	鮮明になる円に対する低い関心
2021年5月17日	円相場の基礎的需給環境～Q1を終えて～
2021年5月14日	週末版
2021年5月13日	インフレ懸念で米金融政策は動きそうか？
2021年5月12日	運動が戻り始めた米株価と米消費者心理
2021年5月11日	スコットランド独立を巡るQ&A～現状と展望～
2021年5月10日	最近の為替市場に見る「正常化の胎動」
2021年5月7日	週末版(FRBの対話を阻害してしまうイエレン長官の存在～避けたい「院政」状態～)
2021年5月6日	明暗が鮮明になった「米国 vs. ユーロ圏 & 日本」
2021年4月30日	週末版
2021年4月27日	「成長痛」に直面しそうな新興国はどこにあるか？